

# 高圧処理装置に高い関心

高橋工業 主催 神戸製鋼所工場見学会

【兵庫】加熱処理を行く。そんな「HPP超社」大阪市、柳井順社長  
 万ないにもかかわらず、高圧処理装置」を視察す  
 人に頼らずカキやホタテが18日、兵庫県内であつた。トンネルフリーザーなど全国からなり製品メーカの高橋工業（本

工場見学会には東北、関東、関西、中国、九州など全国からなり製品メーカの高橋工業（本  
 総合水産会社の技  
 術担当者約60人  
 が参加。トンネル  
 フリーザーに欠か  
 せない冷凍機など  
 を製造する播磨工



場（播磨町）、超高圧処理装置を受注生産する高砂製作所（高砂市）を見て回った。見学者が殺到したため、12月2日に2回目の見学会を開く予定だ。

高砂製作所では、水を満たした袋の中に殻付きのカキ、アサリなどを入れ、400MPaの高圧をかけ、400MPaの高圧を保つ状態で5分間保持。袋から員を取り出すといずれも口が開いており、手で殻を軽く傾けるだけで身が滑り落ちた。神戸製鋼所は桃浦かき生産者合同会社（宮城県石巻市）の協力を得て、カキの殻むき用に処理室（圧力容器）の容積100リットル・圧力400MPa級の小型機を開発。装置の構造を従来の縦型から作業しやすい横型に変え、今年納入した。



大型機は当面、処理室の容積400リットルを最大とし、市場ニーズに応じて500リットル以上の機種も開発する計画。圧力は400MPa級と600MPa級をラインアップしているが、カキなど枚貝処理用に250MPa級仕様を製作する予定だ。

見学会などに関する問合せは次の通り。

▼高橋工業㈱ ㈱06・6471・0851

人手に頼らずカキの殻を開き、身を分離できる（上）、超高圧処理装置の全景（下）  
 れも神戸製鋼所提供